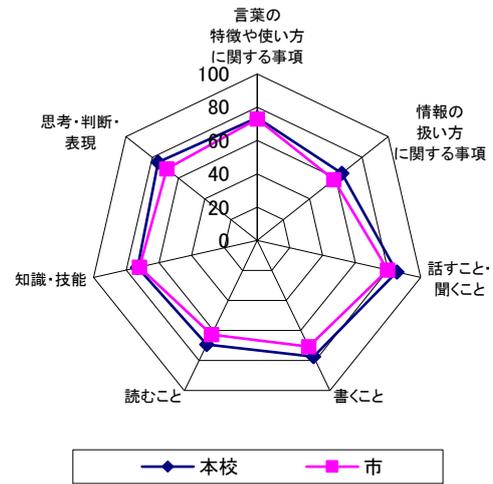


宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	64.6	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	85.4	79.8	75.9
	書くこと	77.4	70.7	71.7
	読むこと	69.3	62.8	62.5
観点別	知識・技能	73.1	72.0	74.4
	思考・判断・表現	75.4	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

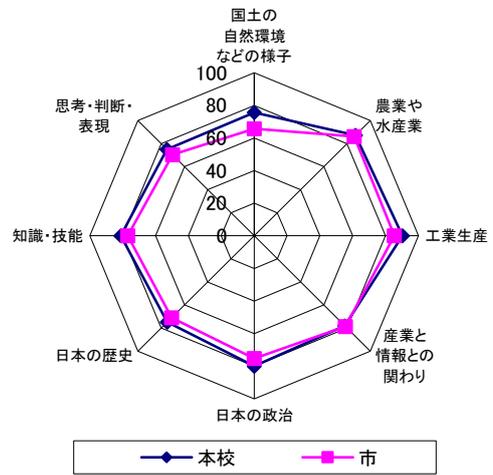
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市とほぼ同じだった。</p> <p>○尊敬語や謙譲語、三字の熟語の構成についての平均正答率が、市の平均正答率よりも高かった。</p> <p>●第6学年配当漢字を書く問題において、市の平均正答率を下回った問題が複数あった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教科の文章を書く活動において、これまでに習った漢字を進んで使えるよう指導していく。 今後も朝の学習や宿題などを利用して、漢字の習熟を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率、参考値(全国)と比べて高かった。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、報告する文章を書く問題で平均正答率が高かった。</p> <p>●5つの領域の中で、一番正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの資料を読み取り、効果的に使用していくことについては、国語科だけでなく社会科や総合的な学習の時間など教科横断的に指導をしていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率、参考値(全国)と比べて高かった。</p> <p>○計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を捉える問題の平均正答率が特に高かった。様々な教科の中で、グループや学級全体での話し合い活動を取り入れてきた成果が出ていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業の中で、互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる学習をさらに続けていく。また、話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えられるような機会を増やしていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率、参考値(全国)と比べて高かった。</p> <p>○自分の意見とその理由を明確にして書くことに加え、賛成しない意見への反論を書くことの問題の平均正答率が特に高かった。</p> <p>●段落の役割について理解し、指定された構成で書くことの問題の平均正答率が、市は上回ったものの参考値の平均正答率を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を明確にし文章を書くことについては、日々の授業の中で今後も指導を続けていく。 段落の役割や文章の構成について、継続的に指導をしていく必要がある。さらに国語科の授業だけでなく、児童会活動や学校行事の事後指導として作文を書くなど、文章を書く機会を設けていく。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率、参考値(全国)と比べて高かった。</p> <p>○物語文では全体像や心情を、説明文でも内容や構成をよく捉える問題について、正答率が高かった。日頃の学習活動の成果であると考えられる。</p> <p>●物語文の表現の効果を捉える問題では、他の問題よりも正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る指導については、引き続き授業の進め方について共通理解を図り、発達段階に応じた効果的な授業を行っていく。 様々な文章を読む機会を充実させていくと共に、読んだことをもとに書いたり話したりする活動を関連付け、国語の授業の中で行っていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.6	65.7	67.0
	農業や水産業	87.2	86.1	77.5
	工業生産	90.2	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	78.0	78.6	69.6
	日本の政治	79.9	75.2	65.8
	日本の歴史	74.7	71.1	69.1
観点別	知識・技能	81.2	77.0	72.8
	思考・判断・表現	75.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

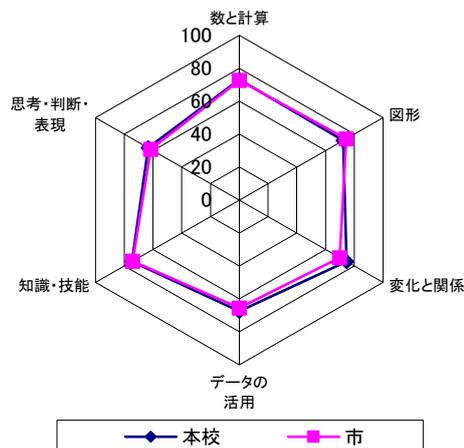
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>全体的にみると、市や参考値(全国)の平均正答率より高い。</p> <p>○林業に関する作業や自然災害から身を守る取組について答える問題の正答率が市や参考値の平均正答率より10ポイント以上高かった。</p> <p>●日本の気候や国土、周辺の国や海洋名について問う問題の平均正答率が低かった。</p>	<p>・国土や世界について興味関心をもって生活し学習を進められるよう、全国や世界のニュースを取り上げて日本地図や世界地図と関連させながら理解できるようにしていく。</p> <p>・日本の気候については、日本地図や雨温図など複数の資料から読み取れるデータを的確に結び付け、資料に分かったことを書き加えるなど資料分析の仕方を身に付けていけるようにする。</p>
農業や水産業	<p>全ての問題において、市や参考値(全国)の平均正答率より高い。</p> <p>○水産業における国内生産量と輸入量や、農産物の都道府県別生産量について、折れ線グラフや日本地図に書き込まれた図を的確に読み取ることができた。</p> <p>●資料を読み取って記述する問題において無記述の部分が見られた。</p>	<p>・資料を的確に読み取り考える力をさらに向上させるために、資料の重要な言葉に印をつけたり資料から読み取れる内容を短い言葉や記号で書き込んだりする習慣を付けるようにする。また、複数の資料を関連付けて読み取る活動を行う。</p> <p>・資料について自分の言葉で説明できるように、読み取ったことや考えたことを順序立てて説明する活動に話型を取り入れるなどして一人一人が自信をもてる工夫を行う。</p>
工業生産	<p>全ての問題において、市や参考値(全国)の平均正答率より高い。</p> <p>○工業製品の種類についての問題の平均正答率が高く、また、電気自動車をガソリンカーと比較して表現する問題の平均正答率も市のものより5ポイント以上高い。</p>	<p>・日本の工業の工業地帯の生産物やそれらの特徴などについて調べ学習を充実させ、様々な視点からまとめる学習を通してさらに理解を深めさせていく。また、自主的な調べ学習も奨励していく。</p>
産業と情報との関わり	<p>全ての問題において、市や参考値(全国)の平均正答率よりも高い。</p> <p>○情報の正しい受け取り方についてよく理解しており、市や参考値の平均正答率より高い。</p> <p>●放送、新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する問題の平均正答率は、参考値よりは高いものの、市の正答率に比べて少し低い。</p>	<p>・普段からテレビのニュースや新聞に親しみ、それらの情報の伝え方や特徴を捉えられるよう、メディアを利用した家庭学習や調べ学習を充実させていく。また、基礎基本の定着を図りながら、著作権や個人情報保護などと関連付けて学習できるようにしていく。</p>
日本の政治	<p>全体的にみると、市や参考値(全国)の平均正答率よりも高い。</p> <p>○三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判のしくみについて捉え、判断する問題の平均正答率は、市や参考値(全国)に比べて特に高い。</p> <p>●日本国憲法における天皇の地位についての理解が、参考値よりは高いものの、市の平均正答率に比べて少し低い。</p>	<p>・政治の学習は、日本国憲法の3つの柱や政治のしくみなど学習内容が変わらないもの、法律や条例などその時の社会情勢によって改定されて変化するものがある。外部講師などから税金などの使われ方について学ぶなど、基本的な知識の定着を図りながら、メディアを活用し、タイムリーな話題について考える機会を設ける。</p>
日本の歴史	<p>全体的にみると、市の平均正答率に比べて高い。</p> <p>○日本の各地方の特色と古墳時代の背景を十分理解していることから、日本地図から前方後円墳の分布の資料を読み取る問題では市の平均正答率より高かった。</p> <p>●弥生時代の人々の暮らしに着目して、米づくりが広まったことについて考え、判断する問題では市の平均正答率より低かった。</p>	<p>・歴史学習においては、その時代に起きた事象だけを授業で取り上げるのではなく、背景や地図、人々の暮らしの変化など多角的に児童が考察できるよう資料などを活用した授業展開を行っていく。</p> <p>・各時代の学習を積み重ねていくと、児童も知識が錯綜していくため、大まかな時代ごとに年表づくりやレポートにまとめるなど、定期的に児童の知識・思考を整理する機会を設けるようにする。</p>

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.2	72.6	71.6
	図形	72.3	74.4	72.0
	変化と関係	74.6	69.8	62.6
	データの活用	67.5	65.5	59.1
観点別	知識・技能	74.7	74.1	68.9
	思考・判断・表現	63.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

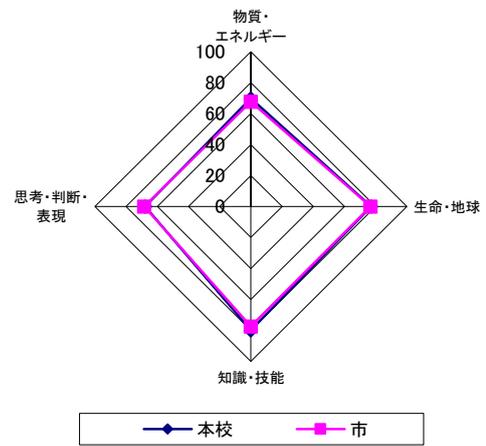
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市をやや上回った。</p> <p>○「数と計算」の文章問題(分数の計算・文字の式)の平均正答率が市の平均より高かった。習熟度別学習で個々に応じた指導を行ってきたことの練習の成果であると考えられる。</p> <p>●「数と計算」の基礎計算(小数同士のかけ算、分数同士のかけ算・割り算)と文章問題(倍の計算)の平均正答率が市の平均より低かった。それぞれの状況での計算のきまりが定着していないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎計算を正しくできるようにするために、計算のきまりの再確認や反復練習の機会を増やすように、授業だけでなく、朝の学習や家庭学習においても計画的に取り組ませていく。 授業では、文章題のそれぞれの状況に応じて、計算の意味を考えながら問題解決できるように丁寧に指導していく。
図形	<p>平均正答率は市をやや下回った。また、問題によって平均正答率の差が大きかった。</p> <p>○多角形の内角の和と図形の角度についての問題の平均正答率は、市と比べ高かった。習熟度別学習や朝の学習での繰り返し練習の成果と考えられる。</p> <p>●線対称な図形や三角形の作図や三角柱の展開図からの読み取りについては、市の平均正答率と比べるとやや低かった。正多角形・合同・立体の展開図や見取り図などの作図や読み取りの定着ができていないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を確認しながら作図したり、様々な観点で図形の特徴を調べて分かったことをノートに整理したりする学習を重視していく。 点対称な図形や線対称な図形については、再確認し朝の学習や家庭学習において計画的に練習問題に取り組ませていく。 習熟度別学習においては、図形の特徴や作図について個に応じた指導をしていく。
変化と関係	<p>平均正答率は市を上回った。</p> <p>○図から面積と人数の割合を求めたり、時速を求める式を選んだりする設問では、平均正答率が市の平均より高かった。自分の考えをノートにまとめたり、友達に対して説明したりすることに取り組んできた成果であると考えられる。</p> <p>●平均を求めたり、速さを使って距離を求めたりする2問については、市や全国平均正答率と比べるとやや低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの大きさについての問題では、問題場面や図を提示して、式や商の意味をその都度確認できるように丁寧に指導していく。 速さを使って距離を求める問題については、時間・速さ・距離の関係について確認したり、どのようにして求めればよいかについて説明し合ったりする活動を通して、理解できるように指導していく。
データの活用	<p>平均正答率は市を上回った。</p> <p>○集団のデータの平均値を求める問題を除く全ての問題の平均正答率は、市と比べ高かった。第4学年より習熟度別学習で個に応じた指導を行ってきたことの成果であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業でデータの見方について学習していく際には、データの度数分布や平均値や最頻値、中心値に着目して、統計データの特徴を読み取り判断すること、結論について多面的・批判的に考察することを指導していく。 データ分析の仕方を、算数科の授業だけでなく、他教科等の調べ学習などの際に活用しながら、考察する力を育てていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	67.8	64.1
	生命・地球	77.1	76.7	78.3
観点別	知識・技能	79.9	77.4	78.3
	思考・判断・表現	67.8	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>市の平均正答率や参考値(全国)を上回った。</p> <p>○物のとけ方についての設問では、全ての問いで平均正答率が市の平均正答率を上回った。実験結果だけでなく、正確な結果を得るための実験手順についても重点的に指導してきた成果だと考えられる。</p> <p>●方位磁針の針の様子から電磁石の両端の極を推測する設問では、市や参考値の平均正答率を大きく下回った。引き合う極、しりぞけ合う極についての理解が不十分であると思われる。</p>	<p>・既習の学習内容について理解できているか確認しながら進める必要がある。</p> <p>・「方位磁針の針の赤い部分は北(N)を向く」ことから、「方位磁針の針の赤い部分は磁石のN極を指し示す」という誤認を生じさせている可能性がある。方位磁針はN極とS極が引き合う性質を利用した道具であること、北極はS極であることを丁寧に指導する。</p>
生命・地球	<p>市の平均正答率を上回ったものの、参考値(全国)を下回った。</p> <p>○天気の変化についての設問では、平均正答率が市の正答率や参考値を上回るものが多い。ICTを活用し、雲画像やアメダスの情報の読み取り方について丁寧に指導した成果が表れたと考える。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきに関する設問すべてにおいて市の正答率を下回っている。血液の流れやはたらきについての理解度が低い。</p>	<p>・からだのつくりは実物を見て学習することが難しい分、児童が実感を伴った理解をしにくい。映像教材を用いて、血液循環のイメージをもたせるようにする。</p> <p>・酸素の多い血液と二酸化炭素の多い血液を色分けして塗らせる作業を繰り返し行い、内容の定着を図る。その際、全身の活動には酸素が必要であることとの関わりに触れ、動脈・静脈の酸素量や二酸化炭素量の違いが理由とともに理解できるよう指導する。</p>

宇都宮市立西原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう、全教職員で共通理解を図ってきた。また、年度初めに各教科の授業の進め方や朝の学習、家庭学習の実施方法等についての共通理解も図ってきた。	学習内容定着度調査結果から、国語・社会・算数・理科の基礎的な問題の正答率は、市と比べ高かった。しかし、漢字の読み書き、対称の図形、理科の電流や物の燃え方、生物と環境の問題において課題があった。日々の授業や朝の学習、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
児童が主体的に取り組めるような学習の展開や場の設定、思考力や表現力を育てる指導の工夫・改善	言語活動の充実、振り返り活動の充実を行い、児童が主体的に取り組めるような授業の在り方・思考が見えるようなノート指導の工夫について、共通理解を図れるよう校内研修を行ってきた。学び合いの場の設定については、新型コロナウイルス感染症予防対策をとり、工夫して行った。	「学習と生活のアンケート」調査から、「ノートにまとめる」等の設問の肯定割合は学年によって差があった。だが、「新しく習ったことは繰り返し学習している」という設問の肯定割合は、すべての学年で市の肯定割合よりも高く、学習に前向きに取り組んでいることが分かる。今後、発達段階に応じたノート指導の工夫について指導を続けていく。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の徹底
- ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習とノートの使い方の指導
- ・やる気やあきらめない気持ちを育てるための支援・学習ドリル・プリントなど前学年以前のものも取り入れ、家庭学習などで活用する。
- ・自主学習を積極的に取り入れ、個別に合った課題を児童自ら学習できるように指導・支援する。
- ・少し考えれば答えを導くことができる課題を与えることで、成就感を味わわせたり、考えることの楽しさに結びつけたりする。
- ・万が一の休業に備え、ICTを活用した、児童の学びを止めない対応を事前に検討し、スムーズに実施できるよう工夫していく。